

教科名	年間授業時数	学年
国語	175	3
授業形態	指導者名	
一斉授業	平井敬貴・山本千尋	

教科書（発行所）	中学校国語3（学校図書）・中学校書写（学校図書）
教科書以外の教材（発行所）	ウイニングPLUS中学校問題集国語3（好学出版） 3年生の総仕上げ ファイナルステージ（文理） 必修テキスト3（文理） 漢字練習字典（新学社） 国語便覧（浜島書店）

目標	国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。		
学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○読む <ul style="list-style-type: none"> 1. 社会に向けて <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の働きやコミュニケーションを支える要素について考える。 2. 命の共鳴 <ul style="list-style-type: none"> ・表現と主題を巡って自分なりの意見を持ち、交流する。 3. 未来への問い <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の主張を理解し自らの認識に役立て、主体的な立場から人間の生き方について考える。 4. 今に向かって <ul style="list-style-type: none"> ・響き合う言葉との出会いを求めて古典を読もうとする構えを作る。 5. 世代を超えて <ul style="list-style-type: none"> ・筆者が伝えようとしているメッセージを受け取り、それを自分自身とのかかわりで考える。 ○読書 <ul style="list-style-type: none"> ・物語や小説などを読んで批評したり論説や報道などの情報を比較して読んだりする。 ○表現 <ul style="list-style-type: none"> ・語句や文を効果的に使い、資料などを活用して説得力のある話をする。 ・論理の展開を工夫し、説得力のある文章を書く。 ○書写 <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの多様な文字に関心を持ち、効果的に文字を書く。 		
定期考査	出題方針	教科書の内容と発展学習の内容を中心に出題する。	
	範囲 (予定)	第1回考査	「言葉の共有」「ケナリも花、サクラも花」「Water」「文字を見抜く1」／「俳句」「俳句十五句」
		第2回考査	「輝ける闇」「握手」「ディズニーランドという聖地」「言葉との出会い」「歌の源流へ」「文字を見抜く2」／
		第3回考査	「存在」「黒い雨」「運動会」「文字を見抜く3」／「発見する言葉－枕草子」「漢詩」
		第4回考査	「武蔵野の風景」「寂しいお魚」「パール・ハーバーの授業」「文字を見抜く4」／「言葉が見た風景－おくの細道」
学年末考査	「故郷」「顔の見える国際協力」「文字を見抜く5」		
評価の観点・評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ○評価の観点は国語への「関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」「知識・理解」の5項目とする。 ○具体的な評価は、定期考査を中心に、授業の中での考察、ノート、小テスト、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。 		
先生から アドバイス (予習・復習の方法、 授業の受け方、 ノートの取り方など)	<p>予習で教科書を読み、わからない語句や難しい表現をチェックし、辞書などで確かめ、ノートに整理する。また、各教材末に置かれている「学びの窓」や授業中に配布されるプリントの問題を考える。授業中の要点・板書事項をノートに書き写すのは当然だが、他の生徒の発言にも注意して、ノートをとる。復習としてその日のうちに再度、教科書・ノートを確認、メモなどの走り書きをきちんと整理しておくこと。古典分野では覚えなければならない学習事項が多いので、予習・復習を怠らないこと。</p> <p>なお、課題として配布している問題集は、解答の際に解説をよく読み込み、理解を深めることが大切である。</p>		

年間授業計画表(45分授業)

学期	月	学習内容	時数	学習のポイント	
前期	4	「最初の質問」 「言葉の共有」	3	・筆者の中心的な問いが持つ意味を考える。	
	5	「ケナリも花、サクラも花」	3	・言葉を共有することについて考える。	
	6	「Water」	3	・筆者の体験をとらえる。	
		「文字を見抜く1」	1	・筆者の思いをとらえ、コミュニケーションを支える要素について考える。	
		「書く1」	2	・会話文や心情表現の働きをとらえる。	
		「俳句」「俳句十五首」	4	・表音文字・表意文字について理解する。	
			《第1回考査》		
	7	◎「行書と仮名を書こう」	4	・行書と仮名の字形、筆づかい、行の整え方について理解する。	
		「輝ける闇」	4	・比喻表現の効果に注意して読む。	
		「握手」	4	・モチーフにかかわる表現を理解し、それに基づいて主題をとらえる。	
「ディズニーランドという聖地」		4	・筆者の主張を理解し、社会や人生についての認識を深める。		
「文字を見抜く2」 「言葉との出会い」「歌の源流へ」		10	・常用漢字表について理解する。		
		《第2回考査》			
9	◎「行書と仮名を書こう」	4	・行書と仮名の字形、筆づかい、行の整え方について理解する。		
	「黒い雨」	4	・個々の人物の経験を整理し、多様な視点から出来事を描く表現方法について理解する。		
	「発見する言葉―枕草子」	10	・それぞれの段で何が発見されているかを読み取る。		
	「存在」	3	・考えたり想像したりしたことを出し合い、話し合いによって考えを深める。		
	「文字を見抜く3」 「漢詩」	9	・題名に込められた意味を考え、交流する。		
		「運動会」	3	・点字と拍について理解する。	
後期	10	「話す・聞く2」	3	・漢詩の代表的な作品を読んで、漢詩独特のおもしろさに触れる。	
		《第3回考査》			
	11	「武蔵野の風景」	4	・漢詩の代表作品を読んで、漢詩独特のおもしろさに触れる。	
		「寂しいお魚」	4	・繰り返し音読し、情景や作者の気持ちを心に描く。	
		「パール・ハーバーの授業」	4	・筆者の意見を要素ごとに明確にしてまとめる。	
		「文字を見抜く4」	2	・筆者の主張を理解する。	
	12	「書く2」	3	・登場人物の関係性を読み取る。	
		「言葉が見た風景―おくの細道」	9	・物語の構造を読み取る。	
			《第4回考査》		
	1	◎「行書と仮名を書こう」	4	・行書の特徴、筆づかいについて理解し、文字の大きさ、配列等に注意して書く。	
○百人一首		4	・百人一首を通して、伝統文化を尊重する。		
「故郷」		5	・登場人物の変化を理解する。		
2				・作者が伝えようとしているメッセージを受け取り、それを自分との関わりで考える。	
		「顔の見える国際協力」	4	・筆者の主張をもとに自分の意見をまとめる。	
3	「文字を見抜く5」	2	・指文字・手話について理解する。		
	《学年末考査》	2	・これまで学んできた語句・語彙を確認する。		
	「三年生の語句・語彙の学習」	5	・様々な種類の文章に触れ、主題を読み取る。		
	発展学習 評論文・小説読解 古典演習	5	・古典作品を味わいながら文法事項を身に付ける。		
通年	演習	35	長文読解や小論文の記述、ディベート・ディスカッション等を行う。		
	総時間数	175			

教科名		年間授業時数	学 年
社会科（歴史的分野および公民的分野）		156	3
授業形態		指導者名	
前期：一斉授業 後期：一斉授業		金田雅男	

教科書（発行所）	新しい社会歴史（東京書籍） 新しい社会公民（東京書籍）
教科書以外の教材（発行所）	公民資料集（とうほう） 公民用語（新学社）、公民ワーク（東京法令） 他

目 標	<p>（歴史的分野）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的事象の学習を通して、時代を大きく捉える見方・考え方を身に付ける。また、各時代の政治のしくみ、人々の生活、文化を様々な角度から捉えられる力を養う。 ・自ら課題を設定し、自ら調べ、課題を解決していける力を身に付ける。 <p>（公民的分野）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務の関係を広い視野から正しく認識して民主主義に関する理解する。 ・民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動とのかかわり及び現代の社会生活などについて、個人と社会とのかかわりを中心に理解を深め、現代社会についての見方や考え方の基礎を理解する。 ・国際的な相互依存関係が深まる中で、世界平和の実現と人類の福祉の増大のために、各国民が協力し合うことが重要であることを理解する。また、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることが大切なことを知る。 ・現代の社会的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に収集、選択して多面的・多角的に考察し、事実を正確にとらえ、公正に判断できる。また、学習したことを適切に表現できる。 		
学習のねらい	<p>①各時代の歴史的事象を説明することができ、その際適切に資料が活用できる力を身に付ける。</p> <p>②自ら歴史的事象を選び、地理的な内容とも関連させながら課題を設けて調べることができる力を養う。またその課題を解決できる力を身に付ける。</p> <p>③社会的事象（政治、経済、国際関係）を考察し、その事象を資料を適切に用いて説明できる力を身につける。</p> <p>④社会のさまざまな立場の人たちは、どのように関係しているのか（「対立」と「合意」）、またその人たちが話し合いうことでどのように問題を解決しているのか（「効率」と「公正」）を具体的に学ぶ。</p> <p>⑤持続可能な社会の形成者となるための公民的資質を身につける。</p> <p>⑥地理・歴史の学習をもとに、現代社会の特色をとらえる。</p>		
定期考査	出題方針	教科書の内容、使用している副教材の内容から出題する。	
	(予定)	第1回考査	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の諸地域（東日本） ・近代（後半）の社会
		第2回考査	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の社会 ・人間の尊重と日本国憲法の基本原則
		第3回考査	<ul style="list-style-type: none"> ・民主政治と政治参加
		第4回考査	<ul style="list-style-type: none"> ・国民生活と政府の役割 ・市場の働きと経済
	学年末考査	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちと国際社会の諸課題 ・地理・歴史・公民のまとめ 	
評価の観点・評価の方法	<p>①社会的事象への関心・意欲・態度</p> <p>②社会的な思考・判断</p> <p>③資料活用の技能・表現</p> <p>④社会的事象についての知識・理解</p> <p>上記4項目について、授業への取組（ノート・発表等）、提出物、レポート、定期考査の結果で総合的に評価する。</p>		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	<p>資料から何が言えるのか、社会的事象を考察するときの大きなカギになります。積極的に考察すること、自分の言葉で表現してみること、他の人の意見も十分に聞き、ノートに的確に記録するようにしましょう。</p> <p>公民的な学習が終わったときに、自分の理想とする「持続可能な社会」とはどんな社会なのか、提案できるようになってもらいたいです。</p>		

年間授業計画表 (45分授業)

学期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	・近代(後半)と現代の日本と世界①	10	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦と日本・帝国主義 ・大正デモクラシー・世界恐慌 ・ファシズムの台頭 ・軍部の台頭と満州事変 ・日中戦争・太平洋戦争 ・本土空襲・日本の降伏 ・占領体制・日本国憲法と民主化 ・冷戦と世界のようす・高度経済成長期・冷戦の終結・21世紀の世界
	5	・近代(後半)と現代の日本と世界② 《第1回考査》	18	
	6	・近代(後半)と現代の日本と世界③	16	
	7	1 私たちと現代社会 * 私たちが生きる現代社会と文化 * 現代社会をとらえる見方や考え方 * 国民の生活と政府の役 2 私たちと政治 * 人間の尊重と日本国憲法の基本的原則	16	
	9	《第2回考査》 * 民主政治と政治参加 3 私たちと経済 * 市場の働きと経済	20	<ul style="list-style-type: none"> ・戦後の社会を中心に歴史的分野・地理的分の学習をもとにして、現代の社会について学習を進めることを知る。(少子高齢化, 情報化, グローバル化) ・現代社会のとらえ方を学ぶ。 ・法に基づく政治, 憲法の基本原則とは何かを学ぶ。また基本的人権とは具体的にどのようなことかを理解する。 ・政治のしくみ(地方自治・国会を中心した民主政治)について理解し, 三権分立の意義を考える。 ・市場経済の基本的な考え方(生産や金融の仕組み, 企業の役割, 労働条件等)を学ぶ。
後期	10	3 私たちと経済 * 金融と政府の役割 4 私たちと国際社会の諸課題 * 世界平和と人類の福祉の増大 《第3回考査》	20	<ul style="list-style-type: none"> ・国民生活と政府の役割について考える。 ・主権国家, 国際機関について理解しつつ, 日本の安全保障や国際関係について考える。 ・社会的事象(環境, 資源, エネルギー, 貧困など)をグローバルな視点で考察をする。 ・地理的分野, 歴史的分野をもとにして系統的な考察を通して, 現代の社会を見直し, 各自の考える持続可能な社会とはどのような社会なのか, を考えてみる。 ・課題に沿って各自でテーマを決めて, レポートを作成する。 ・高等学校の学習を知る。
	11	* よりよい社会を目指して	18	
	12	* 社会的な課題の探求① 《第4回考査》 * 社会的な課題の探求②	15	
	1	* 社会的な課題の探求③	18	
	2	年度末考査		
	3	・高等学校の社会科学学習にむけて	5	
		総時間数	156	

教科名		年間授業時数	学年
数 学		156	3
授業形態		指導者名	
習熟度別による少人数授業		皿海和義, 浅野晃靖, 白神宏明	

教科書 (発行所)	新しい数学3 (東京書籍)
教科書以外の教材 (発行所)	体系数学2 幾何編 (数研出版) 体系問題集数学2 幾何編 発展 完成ノート (数研出版) 数学I (数研出版) 4プロセス数学I 完成ノート (数研出版)

目 標	数学的活動を通して、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察し表現する能力を高めるとともに、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、それらを活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる。		
学習のねらい	1 「数と式」領域 ・数を実数まで拡張する意義や集合と命題に関する基本的な概念を理解できるようにする。また、式を多面的にみたり処理したりするとともに、一次不等式を事象の考察に活用できるようにする。 2 「図形」領域 ・図形の性質を三角形の相似条件を基にして確かめ、論理的に考察し表現する能力を伸ばす。 ・観察、操作や実験などの活動を通して、三平方の定理を見いだして理解しそれらを用いて考察することができるようにする。 ・平面図形や空間図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 3 「関数」領域 ・2次関数とそのグラフについて理解し、2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。		
定期考査	出題方針	教科書の内容、問題集を中心に出题する。	
	範 囲 (予定)	第1回考査	図形と相似, 円
		第2回考査	円, 三平方の定理
		第3回考査	三平方の定理, 数と式
		第4回考査	集合と命題, 2次関数
年度末考査		2次方程式と2次不等式, 中学校3年間で習った内容	
評価の観点・ 評価の方法	評価の観点は「数学への関心・意欲・態度」「数学的な見方や考え方」「数学的な技能」「数量, 図形などについて知識・理解」の4項目とする。 具体的な評価は、定期考査を中心に、授業への取り組み、小テスト、提出物の状況等から総合的に行う。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法, 授業の受け方, ノートの取り方など)	予習については、教科書の内容をあらかじめ見ておくだけでも違います。予習をして授業に臨むようにしましょう。復習については、問題集を中心にその日に習った内容の問題をできるだけたくさん解いて自分のものにしていきましょう。授業には、しっかり集中して臨み、わからないことはその場で先生に質問するか、休み時間、放課後等を利用して質問にくることで、その日のうちに理解するように心がけましょう。ノートについては、黒板を写すだけでなく、自分で気づいたことや先生が説明した内容で重要だと思ったことは自分の言葉でしっかりと書き込んでおいて、後から確認して分かりやすいノートとなるように工夫してみましょう。		

年間授業計画表(45分授業)

期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前 期	4	相似な図形 三角形の相似条件 平行線と線分の比 中点連結定理 相似な図形の面積比, 体積比	3 3 4 3 4	・相似な図形の性質, 三角形の相似条件などを明らかにし三角形の相似条件を根拠とした証明を行うことができるようにする。 ・平行線と線分の比の性質, 中点連結定理について理解しそれらを利用して問題を解決することができるようにする。
	5	円周角の定理 円周角の定理の逆	5 2	・円周角の定理を理解し, それを利用して角の大きさを求めたり, 図形の性質を考察したりすることができるようにする。 ・円周角の定理の逆を利用して, 4点が1つの円周上にあるかどうかを判断したり, 図形の性質を考察したりすることができるようにする。
	《第1回考查》			
	6	円の接線 方べきの定理 章末問題	5 3 4	・円周角の定理を利用して, 円の接線に関する問題を解決することができるようにする。 ・方べきの定理を利用し, 問題解決ができるようにする。
	7	三平方の定理 三平方の定理の逆 三平方の定理と平面図形	3 1 2	・三平方の定理を利用して, 辺の長さを求めることができるようにする。 ・三平方の定理の逆を利用して, 直角三角形を見つけることができるようにする。 ・三平方の定理を利用して平面図形のいろいろな線分の長さを求めることができるようにする。
	《第2回考查》			
	8	三平方の定理と空間図形 章末問題	8 5	・三平方の定理を利用して空間図形のいろいろな線分の長さを求めることができるようにする。
	9	整式の加法と減法 整式の乗法 因数分解 実数 根号を含む式の計算 不等式の性質 1次不等式 絶対値を含む方程式・不等式	2 2 5 2 5 1 3 8	・整式を同類項でまとめたり, 降べきの順に整理したりすることができるようにする。 ・公式を利用して, 式の展開, 因数分解ができるようにする。 ・平方根についての四則計算や2重根号の計算ができるようにする。 ・不等式の性質を理解し, 1次不等式, 連立不等式, 絶対値を含む方程式・不等式を解くことができるようにする。
《第3回考查》				
後 期	10	集合 命題と条件 命題とその逆・裏・対偶 命題と証明	3 5	・集合に関する基本的な用語・記号を理解し, 共通部分と和集合を求めることができるようにする。 ・命題・必要条件・十分条件・逆・対偶・裏などについて理解し, 背理法を利用して証明ができるようにする。
	11	関数とグラフ 2次関数のグラフ 2次関数の最大・最小 2次関数の決定	2 9 5 7	・2次関数について, そのグラフを理解し, 表すことができるようにする。 ・2次関数の最大値・最小値について理解し, 活用することができる。
	12	《第4回考查》		
	1	2次方程式 2次関数のグラフとx軸の位置関係 2次不等式 章末問題	2 4 7 5	・2次関数のグラフとx軸の共有点の個数を求めることができるようにする。 ・2次関数のグラフを利用して, 不等式を解くことができるようにする。
	2	《学年末考查》		
3	3年間のまとめ	10		
総時間数			156	

教科名		年間授業時数	学年
理科		156	3
授業形態		指導者名	
一斉授業		武下 晃慎	

教科書(発行所)	未来へひろがる サイエンス3 (啓林館)
教科書以外の教材(発行所)	実力錬成テキスト3年 高校化学基礎ドリル(物質の構成) 高校物理基礎ドリル(運動・力・運動方程式)

目 標	自然に対する関心を高め、目的意識をもって観察・実験などを行い、科学的に調べる能力と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。		
学習のねらい	<p>[生命] ○卵細胞と精子、5種類の動物の親子、染色体の顕微鏡写真をもとに、親から子への生命のつながりが広く生物界で起こっており、今、わたしたちがいることはどうということかを改めて思い起こさせ、生命はつながっているということへの関心を高めさせる。</p> <p>[地球] ○大昔から太陽や星の動きをもとに暦をつくって生活しているように、天体の動きはわたしたちの生活と密接に結びついていことに気づかせる。現在では、望遠鏡や探査衛星によって、惑星やより遠い宇宙の構造や誕生、地球外生命の探査が行われていることを捉えさせて、宇宙への関心を高めさせる。</p> <p>[物質] ○水溶液の電気伝導性や電気分解の実験を行い、その実験結果から、イオンの概念を形成させる。また、電池、酸・アルカリの性質や中和の実験の結果をイオンのモデルと結びつけて考えることのできる科学的思考力を身につけさせる。</p> <p>[エネルギー] ○日常生活との関連をはかりながら、物体にはたらく力と運動の間の規則性について理解させる。また、エネルギーにはいろいろな種類があり、それらが移り変わってもその総量が保存されることを理解させる。</p> <p>[環境] ○自然環境を調べ、自然界における生物相互の関係やつり合いについて理解させるとともに、自然と人間とのかかわり方について認識を深め、自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的にこうし判断する態度を養う。</p>		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に、問題集、教材プリントなどから出題する。	
	範 囲 (予定)	第1回考査	生物の連続性(遺伝の規則性と遺伝子) 化学変化とイオン(水溶液とイオン 電池のしくみ 酸と金属の反応 化学エネルギー)
		第2回考査	化学変化とイオン(酸・アルカリと塩 pH 中和と中和滴定 物質質量)
		第3回考査	運動とエネルギー(力のつりあい 物体の運動 運動と力 運動の3法則 作用・反作用の法則 仕事とエネルギー 運動方程式)
		第4回考査	運動とエネルギー(多様なエネルギーとその移り変わり エネルギー資源とその利用) 地球と宇宙(地球の運動と天体の動き 惑星と恒星 月の満ち欠け 宇宙の広がり)
学年末考査	自然と人間(自然界のつり合い 人間と環境 自然と人間の生絵活に及ぼす影響 科学技術と人間 科学技術の利用と環境保全)		
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は、科学への関心・意欲、科学的思考、科学的な技能・表現、知識・理解の4項目とする。 ○評価の方法は、定期考査を中心とし、授業への取組のようす、レポート・課題の提出などをもとに、形成的評価と総括的評価を総合的に行う。また観察・実験など自己評価も必要に応じて取り入れる。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	<p>理科の学習は、自然の現象について学んでいく学問です。</p> <p>日常生活で身のまわりのことに対して、「なぜだろう」と考えながら注意して観ること、自分の意見を積極的に述べたり、友達の意見にも耳を傾けながら現象について考えたりすることが必要です。また、実験・観察を通して得られたことを図やグラフを書いて事実合うように考察する態度を身につけることも大切です。具体的には</p> <p>①日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち、その法則性(規則性)について考える態度をもつこと。</p> <p>②疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。</p> <p>③学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。</p>		

年間授業計画表

期	月	学習内容	時数	学習のポイント	
前 期	4	「生命」生命の連続性 2章 遺伝の規則性と遺伝子 ※遺伝の法則 ※いろいろな遺伝 ※DNAと染色体 江戸時代のバイオテクノロジー 力だめし <small>※印は高等学校の内容を含む</small>	(18) 5 10 2 1	・遺伝のしくみは遺伝子が受けつがれることで説明できることを理解させる。 ・遺伝子の本体はDNAであり、遺伝子是不変ではなく変化することがあることを理解させる。 ・現在の遺伝子やDNAに関する研究やその研究成果がどのように利用されているかを知り、理解を深めさせる。	
		「物質」化学変化とイオン 水素と酸素から電気をつくる 1章 水溶液とイオン ※元素の周期表 ※原子の構造と同位体 ※電子配置とイオン ※イオン間の結合 ※原子間の結合 2章 酸・アルカリと塩 ※pH ※中和と中和滴定 ※物質質量 光で科学変化を進める光触媒 力だめし <small>※印は高等学校の内容を含む</small>	(31) 1 10 2 2 2 2 2 10 1 4 4 1	○生徒にとって意外性のある果物電池でモーターが回っている写真を大きく提示し、電池をより身近なものとしてとらえさせる。さらに、探究活動を設定し、科学の方法の一例を提示する。 ○まず水溶液に電流を通す実験を行い、水溶液には電流を通すものと通さないものがあることを見いださせる。次に電気分解の実験より、イオンの存在を見いださせイオンの生成が原子の成り立ちに関係することを理解させる。また、電池の実験を行い、電池は化学エネルギーが電気エネルギーに変換されていることに気づかせるとともに、イオンのモデルを用いて電池の原理が説明できるようにする。 ○まず酸やアルカリの水溶液を用いた実験を行い、酸やアルカリのそれぞれの特性が水素イオンと水酸化物イオンによることを見いださせるとともに、電離の様子をイオンのモデルを使って説明できるようにする。次に、中和反応の実験により、酸とアルカリが反応すると水と塩ができることを見いださせるとともに、中和反応をイオンのモデルを使って説明できるようにする。	
	7	「エネルギー」運動とエネルギー どのようなとき運動ははじまるだろうか 1章 力のつり合いと合成・分解 ※三角関数 2章 物体の運動 ※運動の第三法則 ※いろいろな運動 3章 仕事とエネルギー ※エネルギー保存の法則 ※仕事量 4章 いろいろなエネルギーとその移り変わり 5章 エネルギー資源とその利用 未来の生活スマートコミュニティ 力だめし <small>※印は高等学校の内容を含む</small>	(35) 1 1 2 2 5 5 2 2 3 5 3 1 1	○いろいろな物体が運動のようすの写真を紹介し、運動が始まる原因を考えさせることにより、運動とエネルギーの学習への興味・関心を高めるようにする。 ○2力がつり合う条件を見いださせ、2力のつり合いを理解させる。次に、合力を導入し、作図によって合力を求めることができるようにする。最後に、分力の求め方を理解させる。 ○記録タイマーやストロボ写真をもとに、物体の速さや運動の様子を調べる方法を身につかせ、物体にはたらく力と運動との関係を理解させる。 ○仕事の量の求め方を理解させ、仕事の原理を見いださせる。また、仕事をする能力としてエネルギーを定義し、位置エネルギーや運動エネルギーの大きさと物体の高さや質量、速さとの関係を見いださせる。最後に、まさつ力や空気の抵抗がなければ力学的エネルギーが保存されることを理解させる。 ○身のまわりにあるいろいろなエネルギーについて気づかせ、それらのエネルギーはどのように移り変わるか理解させるとともに、エネルギーの総量は一定に保たれることを理解させる。 ○人間は多様なエネルギー資源を消費して活動していることを知るとともに、将来にわたってエネルギー資源を確保し、安全で有効な利用と環境保全をはかることの重要性を認識させる。	
		「地球」地球と宇宙 地球はどのような天体なのだろうか 1章 地球とその外側の世界 2章 太陽と恒星の動き 3章 月と金星の見え方 宇宙からめぐる物質 力だめし	(26) 1 8 8 8 1	○太陽や星の見かけの動きから、地球の自転や公転という運動を見いださせる ○太陽系の天体の特徴を知るとともに、惑星の動きや見え方、月の満ち欠けと日食・月食について理解させる。 ○太陽の特徴を知るとともに、太陽系は銀河系に属すること、銀河系の外には別の銀河が多数存在することを理解させる。	
	後 期	12	「環境」自然と人間 山と海に広がる森 1章 自然界のつり合い 2章 人間と環境 3章 自然が人間の生活におよぼす影響 4章 科学技術と人間 5章 科学技術の利用と環境保全 地球とともに生きる 力だめし	(24) 1 5 4 5 3 4 1 1	○植物、動物および微生物を栄養摂取の面から相互に関連づけて捉えるとともに、自然界では、これらの生物がつり合いを保って生活していることを見いださせる。 ○学校周辺の身近な自然環境について調べ、人間の生活が自然環境に影響を及ぼしていることを理解させるとともに自然環境を保全することの重要性を認識させる。 ○日本の自然について、今まで学習してきたことを思い出させ、さらに地域の自然を調査し、自然からの恵みと災害についての理解を深めさせる。自然現象の監視や防災・減災などについても調べ、自然との共生の在り方について考えさせる。 ○科学技術の発展の過程について、どのようなものがあるかを理解させ、さまざまな科学技術の利用によって人間の生活が豊かで便利になったことを認識させる。
			3年間の復習 発展的問題演習	22	
					156

教科名		年間授業時数	学年
音楽		39	3
授業形態		指導者名	
前期：一斉授業 後期：一斉授業		西岡 忠	

教科書（発行所）	中学生の音楽2・3下 中学生の器楽	(教育芸術社) (教育芸術社)
教科書以外の教材（発行所）	音楽ノート 愛唱歌集	(岡山県中学校教育研究会) (岡山県中学校教育研究会)

目標	音楽活動の喜びや感動を体験させるとともに、進んで音楽活動をしようとする意欲を養う。		
学習のねらい	<p>1 歌唱 豊かな響きを工夫し、言葉の抑揚やリズムを生かして美しい発音で歌う。他の声部や全体の響きに気をつけて合唱する。</p> <p>2 器楽 楽器の基礎的な奏法を身につけ、美しい音色を工夫して演奏する。伴奏の形やとけ合いを意識して合奏表現ができる。</p> <p>3 創作 歌詞や楽器にふさわしい旋律を作り、表現する。リズム、フレーズや短い旋律を作る。</p> <p>4 鑑賞 楽曲の雰囲気や曲想と諸要素の働き、声や楽器の音色と組み合わせによる響きと効果、我が国及び諸外国の民族音楽の特徴を感じ取って聴く。</p>		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に、音楽ノート、プリントなどから出題する。	
	範囲 (予定)	第1回考査	無し
		第2回考査	「花」, 「カントリーロード」, 「Tomorrow」, 郷土の音楽, 鍵盤楽器の名曲, リコーダーの奏法・運指,
		第3回考査	無し
		第4回考査	無し
学年末考査	ブルタバ, バレエ音楽, 雅楽, 諸民族の音楽, リコーダーの奏法・運指		
評価の観点・評価の方法	<p>○評価の観点は、音楽への関心・意欲・態度、音楽的な感受や表現の工夫、表現の技能、鑑賞の能力の4項目とする。</p> <p>○具体的な評価は、授業への取り組み、ノート、授業プリントの提出状況、歌のテスト、リコーダーのテストなどを総合的に行う。</p>		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	<ul style="list-style-type: none"> 音楽の世界は、範囲も種類も広く、日常親しんでいる音楽も多岐にわたって様々です。いろいろな種類の、いろいろな様式の音楽に興味、関心をもち、知識・技能などを意欲的に学んでいきましょう。 歌唱、器楽及び創作の活動を、単に楽譜上の記号を音に変換する行為にしまわず、歌ったり、演奏したりすることが、自分の生活の中での驚き、発見、喜び等を思い起こすものになるように積極的に活動していきましょう。 基礎、基本を身に付け、個々の目標や課題を見つけて楽しく音楽にかかわっていきましょう。 毎時間忘れものをせず、提出物（ノート、プリント）を必ず出すようにしてください。 		

期	月	学習内容	時数	学習のポイント	
前	4	歌詞の美しさを感じながら合唱する 花	4	歌詞の美しさや旋律の特徴に関心を持ち、イメージを持って意欲的に歌う。	
	5	曲の特徴を生かし伸びやかな表現をする カントリーロード Tomorrow	4	旋律の特徴を生かし、フレーズを考えながら歌う。	
	6	郷土の芸能に親しむ 備中神楽 エイサー	4	郷土芸能の多様な表現に関心を持ち、固有の魅力を感じ取る。	
	7	鍵盤楽器の名曲を鑑賞する	3	様々な鍵盤楽器の構造や音色の違いに注目し、意欲的に鑑賞する。 曲の特徴を時代背景と関連して理解する。	
	8	練習曲ハ短調 小さな風車 前奏曲集			
	《第2回考査》				
	期	5	リコーダーに親しもう *この題材は練習曲を継続して行う		アルトリコーダーの基本的な奏法を身につけ正しいリズムと音程で簡単な楽曲を演奏する。
		9	バレエの魅力を味わう 白鳥の湖 コッペリア	5	バレエを通して総合芸術としての音楽の多様性を理解する。
後	10	さまざまな楽器の響きを味わう ブルタバ	4	作曲された時代の状況や背景を知り、それらと音楽を結びつけて鑑賞する。	
	11	ポピュラー音楽に親しむ どんな空でも	3	歌詞の心情を感じ取り、音の重なりを意識しながら歌う。	
	12	日本の伝統音楽を味わう 雅楽	3	雅楽に興味・関心を持ち、貴重な文化遺産として尊重する。日本古来の音楽の魅力を感じ取る。	
	1	世界の諸民族の音楽を味わう	3	踊りを通していろいろな国の音楽に親しみ、それらの歴史や文化を理解しながら聴く。	
期	2	合唱の喜びを感じる	4	ハーモニーを感じ取り、声部の役割を生かし、全体の響きに調和させる。	
	3	卒業式に向けて 《学年末考査》			
総時間数			39		

教科名		年間授業時数	学年
美術		39	3
授業形態		指導者名	
一斉授業		中村 文香	

教科書（発行所）	美術Ⅱ・Ⅲ上下 社会に広がる美術（日本文教出版）
教科書以外の教材（発行所）	美術資料（秀学社）

目 標	描く活動・作る活動いずれも経験し、ものをつくり出す喜びを実感することで、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を想像していく意欲と態度を高める。 また鑑賞の能力を高め、美術文化についての理解を深めるとともに、個性豊かな美術の能力を高める。		
学習のねらい	<p>1 絵画・彫刻などの活動を通して 二年間の経験をもとに、対象を深く観察する力と、自己をより深く見つめて表現する力を、豊かに発想し構想する能力や基礎的技術によって身につける。また、多様な表現方法や造形要素に関心を持ち、創意工夫して独創的に表現する能力を育てる。</p> <p>2 デザイン・工芸などの活動を通して 設定した主題を効果的に表現できるように、素材のよさを生かした効果を考え構築・総合化し、デザイン的表現力を養う。</p> <p>3 鑑賞 自然、美術作品や文化遺産などについての理解や見方を深め、心豊かに生きることと美術とのかかわりに関心を持ち、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を高める。</p>		
定期考査	出題方針	教科書を中心に、美術資料、教材プリントなどから出題する。	
	範 囲 (予定)	第1回考査	無し
		第2回考査	伝統工芸、鑑賞問題（予定）
		第3回考査	無し
		第4回考査	無し
学年末考査		配色、彫刻、鑑賞問題（予定）	
評価の観点・ 評価の方法	<p>○評価の観点は、美術への関心・意欲・態度、発想や構想の能力、創造的な技能、鑑賞の能力の4項目とする。</p> <p>○準備物や意欲的な態度・真剣に創意工夫しようとする姿勢・仲間との協力・教室での会話など、制作過程での観点別達成度、作品の完成度の判定、単元後の感想文による鑑賞能力判定の3つのポイントを統合して評価する。</p> <p>○作品に対する自己評価も必要に応じて取り入れる。</p>		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノート の取り方など)	<p>ある対象を全員で一斉にカメラで撮ってしまえば、どの写真が自分で撮ったものなのか、見極めることはとても難しいでしょう。しかし、ある対象を全員でスケッチブックにスケッチしたとすれば、どれが自分の作品であるか、一目でわかってしまうことでしょう。</p> <p>対象を深く見つめ、無心に作品を制作することは、自分自身を深く見つめひとかけらの魂を作品に宿していくことだと思います。</p> <p>自分自身の両手から、たくさんのものを、たくさんの世界を「生み出す喜び」を実感する時間です。あなたが作り出すものはすべて、あなたが作り出さなければ、存在しないものなのです。だからひとつひとつ、大切に作りましょう。そうすれば必ず、素敵な世界が生まれるはずです。</p>		

年間授業計画表（45分授業）

学期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	「伝統工芸を味わおう」（鑑賞） ・日本や岡山の伝統工芸の歴史や制作過程、使う人を楽しませる工夫などについて知る。	1	・日本や地域の伝統文化のよさや美しさ、先人の工夫などに関心を持ち、日常生活の中で生かすことの喜びや価値を味わう。
	5	「風に想いを乗せて」（絵画・デザイン・工芸） ・岡山の伝統工芸の技法を生かした、オリジナルうちわの制作をする。	1 0	・美しい構成の仕方を学び、自分の意図に応じて構成の仕方を工夫する。 ・自分や誰かが使う場面を思い描いてデザインを発想し和紙の特性を生かして意図に合う表現方法を工夫する
	6	「生活の中の色の働き」（デザイン） ・色の配色による感じ方の違いを知り、意図に応じて色を使いこなすことを学ぶ。	3	・日常生活の中の色の働きに目を向け、色の効果に興味関心を持つ。色の効果を取り入れ、意図にあったデザインを構想する。
	7	《第二回考査》		
	8			
	9			
	10	「抽象に挑戦しよう」（絵画） ・音楽や言葉のイメージから発想をふくらませ、墨などを用いて自分らしい色や形で表現する。	3	・音楽や言葉などから感じ取った感情などをもとに主題を生み出し、抽象的な色や形で表現する。 ・墨などの描画材の特性を効果的に生かして表現する。
	11			
	12	「イメージを形で表現しよう」（鑑賞/彫刻） ・自然物や心のイメージをテーマに、抽象的な石彫作品を制作する。	1 2	・主題をもとに、塊から感じる存在感や、形から感じる動きなどを生かして、表したい形を考え構想を練る。 ・作品をいろいろな方向から見て、立体としての塊や量感を感じながら、意図に合う方法を工夫して制作する。
後期	1			
	2	「手ぬぐいを飾る文様のデザイン」（工芸） 日本の伝統的な文様を知るとともに、自分でデザインした文様を用いたオリジナル手ぬぐいを制作する。	1 0	・現代でも使われている日本の伝統的な文様を学び、文様にある造形的な美しさの要素を発見し、自分の文様のデザインに生かす。 ・材料や用具の特性を考慮しつつ、形や色彩を創意工夫して表現する。
	3	《学年末考査》		
総時間数			39	

教科名		年間授業時数	学年
保健体育		保健 20 時間 体育 97 時間 計 117 時間	中 3
授業形態		指導者名	
2 クラス合同・1 クラス単独・3 学年合同（縦割り）		鈴木 浩司・内藤 貴子	

教科書（発行所）	中学校保健体育（大修館）
教科書以外の教材（発行所）	体育実技書（学研）

目 標	心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てると共に健康の保持増進の為の実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。
学習のねらい	<p>《体育分野》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1・体づくり運動 自己の体力や生活に応じて、どのような運動をすればいいかを工夫する ① 自己の体に気付く ② 自己の体の調子を整える ③ 仲間と交流する 2・器械運動 自己の能力に応じて、各運動種目の「技がよりよくできる」ことをねらいとし、自己の能力に適した技に挑み、その課題を解決していくことで喜びを味わう 3・陸上競技 速く走る・遠くへ（高く）跳ぶ・遠くへ投げることをねらいとし、自己記録の向上の喜びや仲間と競争する楽しさを味わう 4・球技 集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、得点を取り合って勝敗を競うことをねらいとし、攻防の作戦を立てて、勝敗を競う過程や結果に楽しさや喜びを味わう 5・武道 自己の能力に適した課題をもって次の運動を行い、その技能を身につけ、相手の動きに対応した攻防を展開して練習や試合ができるようにする 6・ダンス 自己の能力に適した課題をもって次の運動を行い、感じを込めて踊ったり、みんなで楽しく踊ったりすることができるようにする 7・体育に関する知識 各種の運動の特性に応じた学び方や安全の確保の仕方について理解するとともに、自己の生活の中での生かし方を理解する 体ほぐしの意義と行い方及び体力の意義と体力の高め方について理解する。また、運動の心身にわたる効果について理解する <p>《保健分野》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1・健康な生活と病気の予防 健康な生活と疾病の予防について理解を深めることができるようにする ア・健康は、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること。 または、主体の要因と環境の要因が関わりあって発生すること

- イ・健康の保持増進には、年齢・生活環境等に応じた食事、運動、休養、及び睡眠のとれた生活を続ける必要があること。また、食事の量や質の偏り、運動不足、休養や睡眠の不足などの生活習慣の乱れは、生活習慣病などの要因となること。
- ウ・喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、心身に様々な影響を与え、健康を損なう原因となること。また、これらの行為には、個人の心理状態や人間関係、社会環境が影響することから、それぞれの要因に適切に対処する必要があること。
- エ・感染症は、病原体が主な要因となって発生すること。また、感染症の多くは、発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、主体の抵抗力を高めることによって予防できること。
- オ・健康の保持増進や疾病の予防には、保健・医療機関を有効に利用することがあること。また、医薬品は正しく使用すること。
- カ・個人の健康は、健康を保持増進するための社会の取り組みを密接なかかわりがあること。

<p style="text-align: center;">定期考査</p>	<p>出題方針</p>	<p>教科書の内容を中心に、資料集・教材プリントなどから出題する</p>	
	<p style="text-align: center;">範囲 (予定)</p>	<p>第1回考査</p>	<p>なし</p>
		<p>第2回考査</p>	<p>体づくり運動・陸上競技・球技・保健等</p>
		<p>第3回考査</p>	<p>なし</p>
		<p>第4回考査</p>	<p>なし</p>
<p>学年末考査</p>		<p>保健・球技・武道・陸上競技等</p>	
<p style="text-align: center;">評価の観点・ 評価の方法</p>	<p>《体育分野》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価の観点は、体育への関心・意欲・態度、自分やチームの能力に応じた課題を設定して努力しているかという思考・判断、実践している運動種目に応じた技能を身につけているかという運動の技能、実践している種目の特性に応じ効果的な練習の仕方・ルール・審判法・競技会の企画・運営の仕方を理解し、知識を身につけているか ・評価の方法は、自己評価・相互評価・レポート提出・運動技能テスト・出席状況等により、総合的に観点別に評価していく ・毎時間が評価の対象であり、学期に数回の技能テストも行う <p>《保健分野》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価の観点は、保健への関心・意欲・態度、身体や精神発達について自分自身で理解しようとしているかという思考・判断、心身の発達や心の健康について理解し、知識を身につけているか ・評価の方法は、定期考査、ノート提出、レポート提出、出席状況に等により総合的に観点別に評価していく 		
<p>先生からアドバイス (予習・復習の方法、 授業の受け方、ノート の取り方など)</p>	<p>《体育分野》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に授業内容を聞きに来る ・更衣を早くし、授業には遅刻しない ・自己健康管理をし、体調の悪いときには担当教師に申し出る ・忘れ物をしない <p>《保健分野》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提出物は必ず出す レポート・ノート等の点数の配点は大きいので気をつける ・忘れ物をしない 		

年 間 授 業 計 画 表

学期	月	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前 期	4	・体づくり運動（体ほぐしの運動）	3	・自己の体に気付き、仲間と交流する
	5	・ダンス（フォークダンス）	4	・互いに協力しながら練習を行う。上級生と下級生の交流を深める
	6	・体づくり運動（体力を高める運動）	6	・互いに協力しながら、体力を高める
		・陸上競技（短距離走・リレー）	1 4	・安全に留意し、基本技術を習得する
		球技（バドミントン）	8	・お互い協力しながら、手際よく測定できるようにする
	7	《第2回考査》		・安全に留意し、お互い協力しながら、練習を行う
		種目選択		
	9	・武道（剣道）、球技（テニス）	1 5	・安全に留意し、お互い協力しながら、練習を行う
		・球技（バスケットボール）	1 5	・安全に留意し、基本技術を習得する
	・健康な生活と疾病の予防	2 0	・安全に留意し、お互い協力しながら、練習を行う	
後 期	10 11 12 1	・体育理論	4	・生活の中での生かし方を理解する
		・陸上競技（長距離走）	1 4	・自分の目標を立て、ペースを設定して安定したタイムで走ることを大きな目標とする
		種目選択	1 4	・生涯体育に向けて、自ら進んで体を動かすようにする
	2	・器械運動（マット） 陸上競技（ハードル・走り幅跳び） ダンス（現代的なリズムのダンス）		・安全に留意し、お互い協力しながら、練習・ゲームを行う
	3	《学年末考査》		・常に技術習得を意識しながら、練習・ゲームを行う。また、チーム内での役割分担を行う
		総 時 間 数		体育 97 時間 保健 20 時間

教科名		年間授業時数	学年
技術・家庭科（技術分野）		20	3
授業形態		指導者名	
一斉授業		宮木 秀樹	

教科書（発行所）	技術・家庭 技術分野（開隆堂）
教科書以外の教材（発行所）	技術・家庭ノート（開隆堂）

目 標	実践的・体験的な学習活動を通してエネルギー変換、情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境とのかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。		
学習のねらい	D 情報に関する技術 (3) プログラムによる計測・制御について、次の事項を指導する。 ア コンピュータを利用した計測・制御の基本的な仕組みを知ること。 イ 情報処理の手順を考え、簡単なプログラムが作成できること B エネルギー変換に関する技術 (1) エネルギー変換機器の仕組みと保守点検について、次の事項を指導する。 ア エネルギーの変換方法や力の伝達の仕組みを知ること イ 機器の基本的な仕組みを知り、保守点検と事故防止ができること。 ウ エネルギー変換に関する技術の適切な評価・活用について考えること (2) エネルギー変換に関する技術を利用した製作品の設計・製作について、次の事項を指導する。 ア 製作品に必要な機能と構造を選択し、設計ができること イ 製作品の組立て・調整や電気回路の配線・点検ができること。		
定期考査	出題方針	教科書の内容を中心に、技術・家庭総合ノート、問題集、教材プリントなどから出題する。	
	範囲 (予定)	第1回考査	実施しない
		第2回考査	情報に関する技術 身の回りにおけるコンピュータ制御 プログラムの作成 エネルギー変換に関する技術 エネルギーの変換と利用
		第3回考査	実施しない
		第4回考査	実施しない
		学年末考査	エネルギー変換に関する技術 機器のしくみと保守点検 エネルギーの変換と利用
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は、「生活や技術への関心・意欲・態度」、「生活を工夫し創造する能力」、「生活の技能」、「生活や技術に関する知識・理解」の4項目である。 ○具体的な評価は、定期考査、授業中での作品、技術・家庭ノート、教材プリント、レポートなどを適正に活用して総合的に行う。また必要に応じて自己評価も取り入れる。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	技術は、実践的・体験的な学習活動を通して、ものづくりやコンピュータの活用に関する基礎的な知識と技術を習得するとともに、ものづくりや情報に関する学習を通して、将来の自分の夢を実現するときにかかされる技術的素養を身につける学習です。 技術が果たす役割について理解を深め、それらを適切に活用する能力と態度を身につけることが大切です。学習を通して、将来の自分の夢を実現するときにかかされる技術的素養を身につけましょう。		

年間授業計画表(45分授業)

期	月	学習内容	時数	学習のポイント	
前期	4	プログラムによる計測・制御(情報) ・アルゴリズムとフローチャート わたしたちの生活とエネルギー変換	2	・プログラムのはたらきや作成手順について理解する。 ・フローチャートの意味、書き方を知る。	
	5	・運動エネルギーの伝達 プログラムによる計測・制御(情報)	4	・運動の伝達について かみ合い・摩擦 リンク機構 スライダクランク機構 カム機構とその仕組みを理解する。	
	6	計測・制御システム	1	・コンピュータを用いた計測・制御の基本的なしくみについて理解する。	
	7	処理の手順とプログラム	2	・人の行動と対応して、身の回りの計測・制御システムの例をあげ、三つの部分を理解する。	
	9	プログラムの作成(情報) ・プログラムによる模型の制御 ・プログラム言語の機能や作成方法 プログラムの作成 ・制御のしくみとセンサの種類 プログラミングと制御 ・課題に合わせたプログラムを制作する。	5	・制御する模型の動作の目的を決める。 ・模型のしくみや動かす手順を考える。 ・使用するプログラム言語の機能や作成方法について知る。 ・センサの種類と働きを知る。 ・目的にあったプログラムの作成を行う。 ・プログラミングにより制御する。	
	10	《第2回考査》			
	後期	11	情報に関する技術とわたしたち(情報) 社会・環境とのかかわり	1	・計測・制御機器の発達と生活の変化について考える。 ・コンピュータ制御の機器が社会生活にもたらす影響について考える。
		12	わたしたちの生活とエネルギー変換 ・エネルギーとエネルギー変換	3	・さまざまな機器を通してエネルギーとエネルギー変換を理解する。 ・エネルギー資源の種類、利用方法を理解する。
		1	・エネルギー変換と効率		
		2	エネルギーの変換と利用 ・電気機器への利用		・エネルギーを有効に活用するためには、エネルギー変換効率を高める必要があることを知る。 ・電気エネルギーの変換のしくみを理解し、適切な利用方法を知る。
		《学年末考査》			
	3	機器の安全な利用と保守点検 電気機器の構造 電気機器の安全な利用 電気機器の保守点検	1	・電気機器の点検について知り、安全な利用方法について理解する。 ・電気機器の手入れや点検について知り、事故防止の具体的な方法を身に付ける。	
		総時間数	20		

教科名		年間授業時数	学年
技術・家庭科（家庭分野）		19	3
授業形態		指導者名	
前期：一斉授業 後期：一斉授業		青山ゆか	

教科書（発行所）	技術・家庭 家庭分野（開隆堂）
教科書以外の教材（発行所）	中学校技術・家庭科用 技・家ノート 家庭分野（開隆堂）

目 標	実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な衣食住に関する基礎的な知識と技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。		
学 習 の ね ら い	A 家族・家庭と子どもの成長 (1) 自分の成長と家族について、次の事項を指導する。 ア 自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりについて考えること。 (2) 家庭と家族関係について、次の事項を指導する。 ア 家庭や家族の基本的な機能と、家庭生活と地域とのかかわりについて理解すること。 イ これからの自分と家族とのかかわりに関心を持ち、家族関係をよりよくする方法を考えること。 (3) 幼児の生活と家族について、次の事項を指導する。 ア 幼児の発達と生活の特徴を知り、子どもが育つ環境としての家族の役割について理解すること。 イ 幼児の観察や遊び道具の製作などの活動を通して、幼児の遊びの意義について理解すること。 ウ 幼児と触れ合うなどの活動を通して、幼児への関心を深め、かかわり方を工夫できること。 エ 家族又は幼児の生活に関心を持ち、課題をもって家族関係又は幼児の生活について工夫し、計画を立てて実践できること。		
定 期 考 査	出題方針	教科書とノートの内容を中心にプリントからも出題する。	
	範 囲 (予定)	第1回考査	なし
		第2回考査	わたしたちと家族・家庭と地域、幼児の生活と遊び
		第3回考査	なし
		第4回考査	なし
学年末考査		幼児とのふれ合い、これからのわたしと家族	
評価の観点・ 評価の方法	・評価の観点は家庭科への「関心・意欲・態度」「工夫・創造」「技能」「知識・理解」の4点とする。 ・考査、発表、学習態度、課題の提出状況などから総合的に評価する。		
先生からのア ドバイス (予習・復習の方法、 授業の受け方、ノート のとり方など)	・忘れ物をしない。 ・人の話を集中して聞く。 ・時間を守る。 ・課題をきちんと行い提出する。 ・学習内容を家庭で実践する。		

年間授業計画表(45分授業)

学期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	○わたしたちと家族・家庭と地域		
		①家庭のはたらき	0.5	・家庭での活動を考え、家庭にはさまざまなはたらきがあることを理解する。
		②家庭生活を支える仕事	0.5	・自分や家族の生活は、家庭の内外での活動に支えられていることに気付く。
	5	③わたしたちの家庭生活と地域	1.0	・家庭生活と地域とのかかわりについて理解する。
	6	○幼児の生活と遊び		
		①幼児期ってどんな時代?	0.5	・幼児期を振り返り、幼児の発達と生活に関心を持たせる。
		②幼児の体の発達	0.5	・幼児の体の発達の特徴を知る。
		③幼児のこころの発達	1.0	・幼児の心の発達の特徴を知る。
		④子どもの成長と家族の役割	1.0	・幼児の生活の特徴を知り、家族の役割について理解する。
	7	⑤子どもの成長と地域	1.0	・子どもの成長と地域のかかわりについて理解する。
7	<第2回考査>			
9	⑥幼児の遊びと発達	1.0	・幼児の遊びの特徴に気付くとともに、幼児の遊びの意義について理解する。	
		⑦幼児の遊びを支えおもちゃづくり	5.0	・遊び道具の製作をとおして、幼児の遊び道具の役割や遊びを支える環境について考える。
後期	10			
	11	○幼児とのふれ合い		
		①ふれ合い体験の前に	1.0	・幼児とのふれ合い体験について、自分の課題をもつ。
		②ふれ合い体験をする	1.0	・幼児とのかかわり方を工夫する。
	12	③ふれ合い体験をふり返る	1.0	・幼児とのかかわり、感じたことや考えたことを話し合い、幼児への理解を深める。
	1	○これからのわたしと家族		
		①中学生と家族とのかかわり	1.0	・家族とのかかわりに関心をもつ。
2	②これからのわたしと家族との関係	1.0	・これからの自分と家族のかかわりや自分の生活に関心をもつ。	
3	<年度末考査>			
		○子どもの健やかな成長のために	2.0	・子どもの権利を定めた条約や法律を知る。 ・子どもが安心して暮らせる環境をつくる活動について知る。
		総時間数	19	

教科名		年間授業時数	学年
英語（英語・英語C）		156	3
授業形態		指導者名	
習熟度別による少人数授業および一斉授業		坂本 留美子, 谷口晃子, 森安鋭子, MahaLaksmee GOVENDER	

教科書（発行所）		NEW HORIZON English Course 3（東京書籍）	
教科書以外の教材（発行所）		《英語》 LISTENING Trail 1.5（文英堂） NEW TREASURE ENGLISH SERIES STAGE2（Z会出版） NEW TREASURE 文法問題集2（Z会出版） 実力練成テキスト3（文理） ブレイクスルー（美誠社）	
目標	外国語（英語）を通じて言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、「聞く」「読む」「話す」「書く」の四技能を統合した実践的コミュニケーション能力を身につける。		
学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・言語の4領域（「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」）をバランスよく学習する。 ・250語程度のまとまった英語を聞いて、その内容を理解することができる。 ・質問・応答・紹介・交渉・説明・論理的な自己表現などができる。 ・200語程度のまとまった英語を読んで、その内容を理解することができる。 ・基本的な文法・語いを使って、300語程度のまとまった英語を書くことができる。 		
定期考査	出題方針	中高一貫テキストNEW TREASUREの内容を中心に、検定教科書にも触れながら、副教材問題集、教材プリントなどから出題する。 Listening Comprehension は必ず行う方針である。	
	範囲 (予定)	第1回考査	中高一貫テキスト NEW TREASURE 2 Lesson 5~6 検定教科書内容
		第2回考査	中高一貫テキスト NEW TREASURE 2 Lesson 7 検定教科書内容
		第3回考査	中高一貫テキスト NEW TREASURE 2 Lesson 8~9 検定教科書内容
		第4回考査	中高一貫テキスト NEW TREASURE 2 Lesson 10 検定教科書内容
学年末考査		中高一貫テキスト NEW TREASURE 2 Lesson 11~12 検定教科書内容	
評価の観点・評価の方法	評価の観点は、コミュニケーションへの関心・意欲・態度、表現の能力、理解の能力、言語や文化についての知識・理解の4項目とする。 具体的な評価は、定期考査を中心に、ファイル、小テスト、その他の提出物を含む課題、授業への取り組み状況等を適切に活用して総合的に行う。		
先生からアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方など)	中学3年生では、習熟度別（希望による）少人数授業を展開します。標準コースではこれまでの学習と同様に、基礎・基本の定着を目指した演習や言語活動などを通して学習を進めていきます。発展コースではより細かな文法指導やその文法を駆使したより発展的な言語活動などを通して、言語使用場面に合わせて学習したことを実践的なものにまで高めていきます。 どちらのコースにも共通して大切なことは、 予習 ・ 授業 ・ 復習のサイクル を確立することです。家庭学習は高校進学を視野に入れ、1時間以上を目標に取り組みましょう。まず、 予習 では、単語調べ、本文の内容理解をできる範囲でやってきましょう。予習の段階で疑問に思ったことは、授業で確認し、それでも不明な点は授業後に先生に確認しましょう。ファイルには赤で直しを入れましょう。 授業 では、言語活動中は音を大切にしっかりと発音することです。五感をフル活用しましょう。また、積極的な挙手を期待します。一方、書く練習やまとめの作業では静かに書くことで整理します。活動の1つ1つにねらいをもち、けじめをつけて学習しましょう。さらに、ペアなどによる学び合いの姿勢も大切にし、お互いに高め合っていきましょう。その日学習したことは必ず 復習 します。CDを聞いたり、音読したり、書く練習をするなどの努力を欠かさずしましょう。この毎日の積み重ねが定着につながります。週5時間の授業と毎日の家庭学習（1時間以上）をフル活用して、実践的な英語力を身につけていきましょう。 No Pain, No Gain. （努力なくして成功なし）一緒にがんばりましょう。		

年間授業計画表(45分授業)

期	月	学習内容			時数	
前期	4	Unit 0 Countries around the World Unit 1 Pop Culture Then and Now	<ul style="list-style-type: none"> 未来形, 比較, There is (are)~, 不定詞の復習 受動態 SV00, SVOC 食事の会話 日本文化紹介 現在完了 継続 	2年時の復習 Stage2 Lesson 5 Washoku --- Japanese Cuisine Lesson 6 Beijing Sightseeing Tours	<ul style="list-style-type: none"> 接続詞 文型(文構造) 動名詞 不定詞と動名詞 現在完了形(完了・結果・経験・継続) 	5
	5	Daily Scene 1 Presentation 1 Unit 2 From the Other Side of the Earth				14
	6	《 第1回考査 》		《 第1回考査 》		
	7	Daily Scene 2 Unit 3 Fair Trade Event	<ul style="list-style-type: none"> 手紙 現在完了 経験 完了 不定詞 副詞的用法(原因) 	Further Reading① Didgeridoo Lesson 7 Forest in Sumatra	<ul style="list-style-type: none"> 受動態 SV00/SVOC 	14
	7	Daily Scene 3 Presentation 2	<ul style="list-style-type: none"> 誘い 修学旅行 			
	8	《 第2回考査 》		《 第2回考査 》		
	8	Let's Read 1 A Mother's Lullaby	<ul style="list-style-type: none"> 場面の变化や登場人物の心情を読みとる 	復習		9
	9	《 サマーチャレンジ 前半 》 [夏季休業中] 《 サマーチャレンジ 後半 》				
	9	Unit 4 To Our Future Generations Daily Scene 4	<ul style="list-style-type: none"> 疑問詞+不定詞 It is ~(for ...)to 不定詞 want...to~ 道案内 how to ~ 	Lesson 8 Skating for Peace	<ul style="list-style-type: none"> 名詞 不定代名詞 再帰代名詞 	16
後期	10	Unit 5 Living with robots -For or Against Daily Scene 5	<ul style="list-style-type: none"> 分詞の後置修飾, 間接疑問文 電話の会話 	Lesson 9 How to communicate without Words	<ul style="list-style-type: none"> 前置修飾と後置修飾 分詞の形容詞用法 	16
	11	《 第3回考査 》		《 第3回考査 》		
	11	Unit 6 Striving for a Better World Daily Scene 6	<ul style="list-style-type: none"> 接触節 関係代名詞(主格, 目的格) レポート 	Lesson 10 A Jackal Met a Man for the First Time	<ul style="list-style-type: none"> 関係代名詞(主格・目的格) 否定疑問 	16
	12	Presentation 3	<ul style="list-style-type: none"> 中学校生活 	Lesson 11 The History of Glasses	<ul style="list-style-type: none"> 不定詞の発展的用法 It ~ (for-)to... 疑問詞+to too ~ to.../ enough to~ 	16
	1	《 第4回考査 》		《 第4回考査 》		
2	[冬季休業中]					
3	Let's Read 2 The Green Door Let's Read 3 An Artist in the Arctic	<ul style="list-style-type: none"> 速読(物語) 速読(伝記) 	Lesson 12 A Change Comes to America Further Reading② A woman Who Changed People's Old Ideas	<ul style="list-style-type: none"> 比較の文の書き換え 間接疑問, 付加疑問 感嘆文 	18	
3					10	

			as		
		《 学年末考査 》		《 学年末考査 》	
				3年間の総まとめ	10
		《 スプリングチャレンジ 》			
		総時間数			156

教 科 名		年間授業時数	学 年
サイエンス（課題研究）		30	3
授 業 形 態	指 導 者 名		
一斉授業	橋田千寿 坂本留美子 平井敬貴	奥野晃司 谷口晃子 内藤貴子	宮木秀樹 皿海和義 鈴木浩司 武下晃慎 金田雅男 青山ゆか

目 標	科学が社会生活において果たしている役割に目を向け、実験・観察・数学的活動を通じて、科学的に調べる能力と態度を育てる。さらに、一人一人が自分の考えについて他者と討論することによって、探求すること、説明をすること、根拠付けをすることなど問題の解決や探求活動に必要なスキルを身に付け、各教科で身に付けた知識や技能などの基礎力を基に、各教科の本質に根ざした問題解決、学びやものの考え方と、教科等を横断する汎用的なスキルと組み合わせる自ら設定した課題を主体的、創造的、協同的に段階的に探求していくスキルを身に付けさせるとともに、実践力を養う。
学習のねらい	<ol style="list-style-type: none"> ①課題研究において探求内容を社会科学，人文科学，自然科学に分類し，文献の調査の方法を身につける。 ②文献調査をヒントに探求課題を設定し，課題意識を持たせるとともに，様々な解決方法を考えさせることによって論理的な思考力を身につける。 ③論理的思考力を構成する様々な推論形式（ピアジェの形式的思考操作）を強化することによって，認知能力の促進・加速を図る。 ④研究発表会，論文記録集を作成し，3年間のサイエンス・グローバル・AMAKI学・教科の学習の集大成とする。
評価の観点	<ol style="list-style-type: none"> ②課題解決のために様々な解決方法を考えようとする態度が身についている。 ③課題を解決するために実証的，論理的に考えたり，分析的，総合的に考察したりすることができる。 ④形式的思考操作ができる。 ⑤他者の意見を参考にして論理的な思考や判断をし，自分の考えを論述することができる。 ⑥自分の意見を適切にまとめ，効果的な発表ができる。
先生からアドバイス (授業の受け方、ノート の取り方など)	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に授業へ参加し，自ら学び，自ら表現する力を身に付けましょう。 ・課題探求の過程では，答えが一つには決まらない課題も出てきます。柔軟な発想や調査活動を通して様々な可能性をしっかりと考えましょう。 ・仲間や先生との議論を通して，批判的，複眼的，分析的に考え，自分の考えを論文で発表しましょう。 ・グローバルで学習している言語技術の手法とサイエンス学習した科学分析方法を利用して，自分が研究したい内容（各教科で得た知識）について意見が言えたり，文章が書けたりするようになりましょう。

年間授業計画表（45分授業）

学期	月	学習内容	時数	学習のポイント
前期	4	<ul style="list-style-type: none"> 方針説明・ゼミアンケート ゼミ開講・ゼミ内の計画方針 テーマ探し 	3	<ul style="list-style-type: none"> ゼミ内の年間計画を立て、組織的、効率的に活動できる環境を設定する。 テーマ設定で担当教師としっかりとディスカッションをする。
	5	<ul style="list-style-type: none"> テーマの決定 テーマ発表会 文献調査など各自の活動 探求課題の解決のために研究計画を立てる。 探求課題の解決のために調査やヒアリングを行う。 テーマ発表会 	2	<ul style="list-style-type: none"> 文献調査から導かれた新たな課題について個人で探求活動をすすめる。 指導担当者がアドバイザーとなり、探求方法などについて計画を立てる。 ヒアリング調査、質問調査、インタビュー調査や実験など体験を通して課題を解決していく。 文献やインターネットを使って情報を収集することができる。 集めた情報を人にどのように伝えるかその内容のまとめ方を習得する。
	6	<ul style="list-style-type: none"> 研究中間報告 調査結果をまとめる。 	5	
	7		1	
	8			
9		3		
後期	10	<ul style="list-style-type: none"> 論文を作成の準備をする。 	4	<ul style="list-style-type: none"> Thinking Science, グローバルの授業で学習した科学的分析方法や、パラグラフライティングの手法を用いて調査探求をした内容について論文を作成する。 プレゼンテーションの技能を身に付ける。 研究の成果をまとめる 1年間の研究成果を発表する。
	11		3	
	12	<ul style="list-style-type: none"> 論文修正 	3	
	1	<ul style="list-style-type: none"> 研究論文集の作成 ポスターの作成 	2	
	2	<ul style="list-style-type: none"> 発表準備 	3	
	3	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究発表会 		
		総時間数	30	